

様式12 テーマ1「親しみやすさと力強さを備えた機能的施設づくり」及びテーマ2「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」についての提案

# 安心感や関心の大きさ、交番の包容力をかたちにします

大きな交番をつくります。オープンな雰囲気を持ち、モニュメントのように目立つことで、威厳と親しみやすさが重なり合いはじめます。

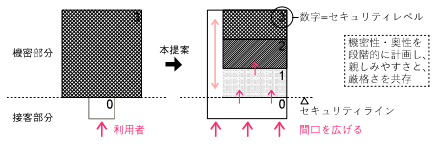
## 街の駆け込み寺、訪ねてみたくなる交番をつくる

宗教への信仰心がそれほど強くない日本人にとって、日常的な心の拠り所として交番を捉えます。警察と市民との間に緊張関係が常にあるのではなく、警察が持つ絶対的に心理的安心と親しみを兼ね、**駆け込み寺(アジール、聖域、避難場所)**としての交番を提案します。街の喧騒のなかで一定割合で点在し、心理的安定の源となる中立的で静かな街の特異点として個性的な姿を持ち、前を通りかかると市民が関心を寄せ、信頼を抱き、寺院のような日常性と象徴性を合わせ持つ、**中へ入りたくなるような開かれた交番のあり方**を提案します。

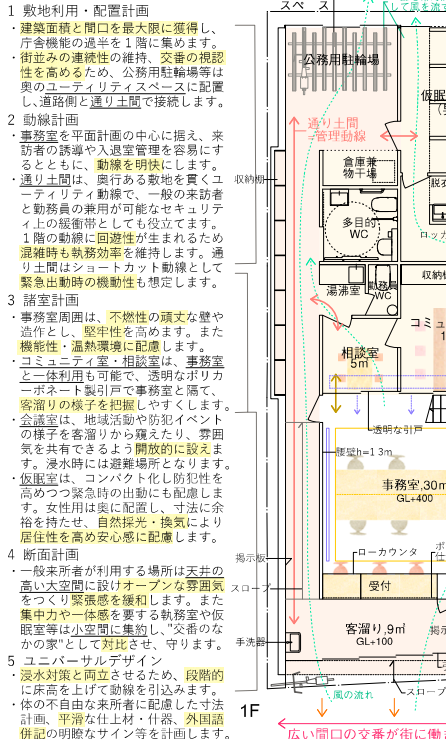


## 町家を踏襲し、開きつつ守る。合理性ある環境づくり

交番制度を生んだ当時の日本を踏まえ、現代の合理性に沿って交番のあり方を更新します。近代の交番は取締りを主とした施設性の構築により、街へ緊張感を放ちましたが、ここでは道路側から段階的に奥行きが生じる町家を踏襲した形態とし、機能性と防犯性を保ちつつ、中核の線りが窺えるほど開放的で、訪れたくなる門構えを構築します。幅広い開口と、ゆとりのある客室を正面に設け、天井が高く開放感のあるフロアラインを形成し、交番イメージを一新します。また、敷地の奥行きを活かし「通り土間」をセキュリティラインの緩衝動線とします。機密性の高い機能は「交番のなかの家」と位置づけ奥へ集約し、正面の事務室が守ります。交番を聞くと同時に機密部分を明確に示すことで親しみやすさを構築し、交番の存在意義について市民の関心と理解を集めます。



## 町家的な諸室配置計画



## 広島のモニュメント(記念碑的建築)に加わる

アーケード街から一歩外れ、道路から復讐し周回中に埋没した交番の現状を見直し、道路面に外観を寄せて配置します。地面レベルでは広い開口が開放感をアピールし、多くの来訪者を招き入れます。替わりに、上方へ向かい隣接するビルから徐々に距離を生むよう外壁を後退させ、**交番の外形を明確化し、街並への圧迫感を抑えつつ堂々とした外観を形づくり親近性を強めます。**明い色のシンプルな外壁面が街の目印となり、賑わいに貢献します。執務機能を満たすだけでなく、市民の心の拠り所としての期待や関心に応える大きさ、**安心を抱く存在感に現れることで、交番と市民を近づけます。**このような姿の交番が街に点在(いずれ増殖も視野)し象徴的な側面を構築することで、街づくりへ繋げ、**広島に豊富な歴史建造物の文脈に参加し、市民の誇りを醸成します。**

## 広島「流れ」を取り入れる

三角州地形が育んだ立地を活かします。開口の広い開口部は川を辿る風や、街をゆるく人の流れに「きざい」を自然に取り込み、周辺環境と連続させます。天井が高く気候の大きな内部空間では、ビルが建ち並ぶ街並みであっても空間を封じ込めず垂直方向に風が抜け、**広高らしい開放的な環境を生み出します。**通り側のアーケード下の外れに立地しつつ、奥の壁を後退させて開放感とゆとりある空間を形成

## どしどし安定感、力強い形と風格

人間の寿命や世代を超え連ち続けられる、耐久性の高い堅牢で力強い形態が生まれ、**親しみやすさと頼りたくなるような聖なる威厳を表現します。**これからの警察、これからの交番のあり方を映し出す

このような計画方針を通じ、警察と市民の関係やイメージを刷新し、将来の交番像を想起しやすい多面性ある建築の姿を、広島に環境とともに実現・発信します。「親しみやすさ」な雰囲気づくりと「威厳の維持」、「聖」と「俗」といった、一見両極に捉えられがちな性質を均衡させ、双方が求め合い、一体となる価値体系を建築の力で構築します。警察活動P.Rの場、接客空間の設えなど、市民との接点に対しては細部を深く検討し、体裁の均衡を図る計画に反映させます。

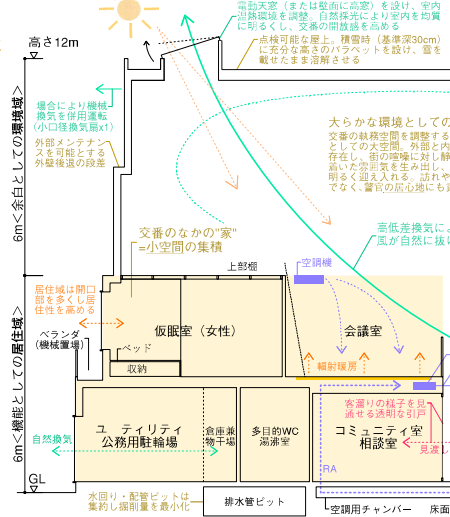
概算工事費 各種技術者と協働し機能・性能を保ちつつ、提案の費用対効果を検討し、コスト・工程管理を行いながら確実な実務進行を徹底します。

交番庁舎	建築工事費 (内装・外装・設備、地盤改良+基礎、鉄骨、内外装、建具、什器等)	76,000千円
	機械設備工事費	7,000千円
	電気設備工事費	5,000千円
	外装等	2,000千円
	工事費合計 (税抜、諸経費込)	90,000千円



## 室内環境計画・断面計画

自然のエネルギーを活かし、大空間は機械空調せず、居住域のよい環境に保ち、省エネ化を図ります。

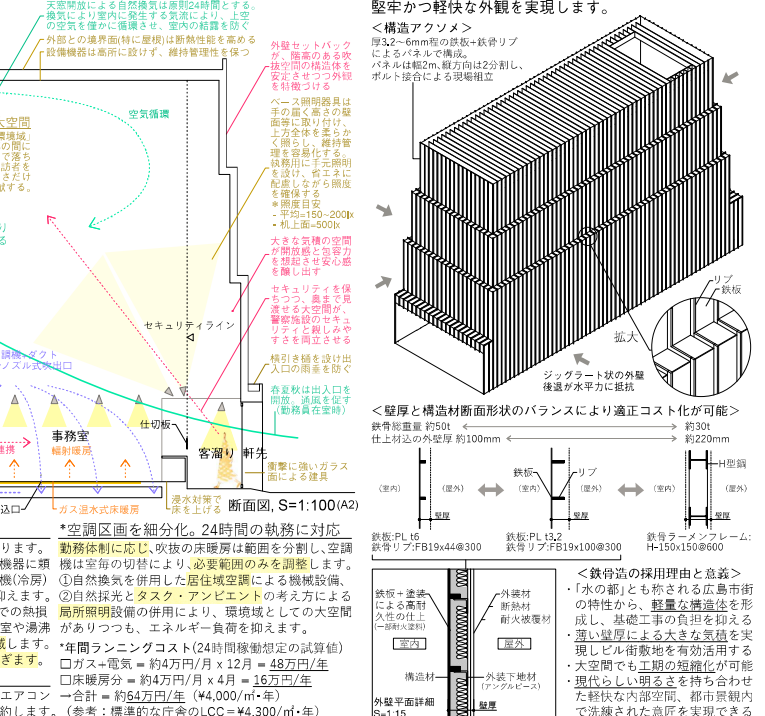


1 吹抜部分(客室り+事務室+会議室)の温熱環境計画  
 1 自然換気・自然採光と居住域空調を併用し、空調負荷を抑制し省エネ化を図ります。夏・冬・春・秋の4気候に対応し、自然換気を生み出す自然換気により、空調機に頼らず自然換気を行い、涼しく快適な執務環境を形成します。夏・冬・春・秋の4気候に対応し、自然換気を生み出す自然換気により、空調機に頼らず自然換気を行い、涼しく快適な執務環境を形成します。

2 諸室部分(コミュニティ室+相談室+仮眠室)の空調換気計画  
 1 一年間に開口部を2ヶ所設け、風の流れをつくり自然換気を促します。住宅用エアコンと換気扇を併用し、使い勝手に応じることスイッチを切替え、エネルギーを節約します。(参考：標準的な庁舎のLCC=44,300/㎡・年)

## 構造計画

「ジグザグ」形状による安定性のある簡素な構造体が、堅牢かつ軽快な外観を実現します。



図解：吹抜部分の断面と構造